

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100867		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	グループホームあそうだ		
所在地	熊本市北区麻生田2丁目5番41号		
自己評価作成日	令和2年3月8日	評価結果市町村受理日	令和2年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和2年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症があってもその人らしい生活が出来るよう、それぞれの生活ペースを考えたケアや環境作りを行い、個性や人間性を尊重しながら日々の支援を心がけています。事故・感染予防、安全で安心できる生活環境の提供に努め、行事・余暇活動の充実により楽しく生活を送れるホームを目標としています。  
ホーム理念(入居者様が地域住民として地域の皆様方に親しまれるように、地域に貢献し、笑顔で安心して楽しく生活を送れる施設作りを行います。)実現のため地域行事への積極的な参加、地域貢献を行い、運営推進会議等を活用した交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは昔ながらの風景が残る住宅地にあり、町内だよりや運営推進会議の情報から様々な行事に足を運んでいる。地元の神社は秋の例大祭や普段の散歩コースとして入居者に馴染みの場所となっており、公園の清掃活動や公民館行事など、徒歩圏内にある地域資源を生活の中に取り入れながら運営している。共有デイサービスを併設し、在宅高齢者の支援にホームの介護力を反映して、リビングから漏れる総勢12名の張りのある歌声やラジオ体操は日課となっている。今年度は運営推進会議へ地域代表者や包括センターからの出席が得られており、ホームの現状を明らかにしながら、情報を発信することで意見の拡充に繋がり、会議本来の目的に添いつつある。職員のこの一年の取組に家族からの評価の声が寄せられており、今後の取組が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念はスタッフ室の壁に掲示し、いつでも確認できるようにしている。	管理者の異動に伴い新体制となって1年、職員育成に力を注いできたところである。職員は理念全体を振り返り評価する機会を持ち、管理者は入居者に安心して生活してもらうという点について、職員の寄り添いの介護やケア力の向上をあげており、現理念をケア指針として継続していくこととしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加(おしゃべり公民館カフェ、麻生田校区夏祭り、菅原神社秋の例大祭、公園清掃、町内そうめん流し、町内もちつき) 近隣へ散歩、保育園との交流会を図っている。	地域福祉に貢献することや入居者自身が地域住民の一人として人々と交流することを理念とし、この一年の取組を職員も評価している。ホームは自治会に加入し、町内だよりから情報を収集して、祭りや行事に参加している。公民館のおしゃべりカフェやソーメン流しに参加し、校区の夏祭りには入居者が夕方からの外出に喜ばれたようである。	ホーム近くの神社は散歩コースとなっており、職員は入居者の社会参加の一つとして最短距離を歩かず、地域の中を回って行くことで、歩行運動や人々との立ち話の機会としている。夏祭りには家族にも参加を呼びかけ、一緒に外出されることも検討いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて参加された地域住民、ささえりあ、入居者様ご家族へ対し認知症の種類や特徴、中核症状と周辺症状についてお伝えしたり、適宜意見交換での質疑応答を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月、7月、9月、11月、1月に運営推進会議を実施。3月に関しては書類配布を検討中。5月、11月は認知症対応型通所介護事業所も同時開催している。	2ヶ月毎の定期開催となっている。包括職員や地域代表者、家族が参加しており、再度認知症への理解を深める意味でミニ講座を開き、身体拘束指針をもとにホームの基本姿勢を明らかにしている。事故やヒヤリハットの報告を行ない、入居者の近況をスライドで紹介している。5、11月は併設する共用デイについても内容報告を行ない、ホームの透明性を図っている。	参加していない家族へは会議内容を面会時に口頭で説明し、外部評価の結果についても報告を行なっている。今後も引き続き会議への参加依頼を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談専門員派遣事業の利用。 地域包括支援センターささえりあ担当者へ運営推進会議にて事業所の現状をお伝えしている。また協働して地域行事に取り組んでいる。	包括センター職員が会議に参加する事で、互いの情報共有ができています。市の介護相談員が毎月来所しており、第三者を介して入居者の意向を引き出している。食事の食べこぼしについての相談員の記録を全職員で共有し、清潔保持に努めるとともに、普段気付かない車いすや歩行器の点検を兼ねて掃除を行い、衛生管理に取り組むなど運営に反映されたことが推進会議でも紹介されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ間で行うミーティングや地域運営推進会議にて身体拘束に関わる事業所の取り組みを説明している。	管理者は新たに入職した職員へ実際の業務を通し、身体拘束に繋がる行為について指導している。毎朝のミーティングでテレビ報道などの事例や、ホームでの気づきを話し合い、拘束ゼロへ向けた取組を進めている。人感センサーを使用する入居者については、家族への説明と同意が得られている。	身体拘束の指針を掲示することで職員の意識強化とし、来訪者に向けた啓発となることが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止に関する指針のもと、運営推進会議、ホームで月に一度開催されている検討部会・グループミーティングにて関わる事故の周知と基本的知識習得のために定期的に時間を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人拠点内の勉強会、スタッフ間ミーティングにて左記内容を学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項に関わる内容を説明している。 改定時には変更合意書を発行し、御家族様へ郵送。運営推進会議を活用して説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート用紙、意見箱を玄関に設置している。また面会時に御家族様と話す時間を設けたり、運営推進会議を活用して御要望等を抽出できるよう配慮している。頂いたご意見に対し適宜ケアに反映させている。	家族の面会時や電話で入居者の近況を伝えながら、意見や要望がないか確認している。毎月送付する健康チェック表で現在の心身の状況を伝え、感染症対策としていち早く家族の面会制限を設けている。家族アンケートについて質問内容などを見直し、準備はしているものの、活用には至っておらず実現されることが期待される。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、管轄の施設長をはじめ事業所管理者、職員が集まり会議を開催している。別に事業所の職員だけの集まりもあり、そのなかで意見交換がなされている。	管理者は法人会議に参加し、合同研修で「記録の重要性」について講師を努めるなど法人と一体となってホーム運営の向上を目指している。職員意見に耳を傾け、負担軽減策として残業を極力しない事や有休取得を進めている。この一年の職員の取組はホーム全体の環境整備にも表れており、入居者に居心地の良い環境を提供している。	昔ながらの住宅地に立つホーム周辺は道幅も狭く、職員の運転について地域からの苦情が1件あがっており、早急に話し合い対応している。今後も職員一人ひとりが気を引き締め、ホームの一人として安全運転を徹底されることが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は日頃より一人ひとり評価し、普段の頑張りが給与等に反映されている。毎月一度ミーティングが開催され、上記同様意見交換が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人拠点ごとに毎月研修会が開催されている。また事業所内においても月に一度認知症ケアに関する勉強会を実施、自己啓発活動も推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	麻生田校区ネットワークの会への参加により他法人同業者との交流が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス内容を細かくお伝えし、御本人様にもホーム見学いただけるようアプローチや面談では時間に縛られず納得いただけるまで話を伺うよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスに至る経緯や背景を鑑み、ニーズを引き出しながら不安の無い利用へと繋げていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様、御家族様の話を伺いながら当事業所の利用も含め適切なサービスの助言を行っている。近隣の事業所、同法人他事業所へ繋ぐケースもあった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	フェイスシートの情報と普段の御様子をしっかりと観察、情報共有することによりコミュニケーションを充実させ、密な関わりをもてるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御利用者様と御家族様が共に過ごす事が出来る行事を企画したり、面会や担当者会議、運営推進会議の開催に際して出席を勧め事業所・御利用者様との関係が疎遠にならないよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前に仕事で付き合いがある方が面会でお越しになれる。外出は中々できていないがホーム近隣の方とボランティアの受入や行事参加により繋がりが生まれ新たな関係ができています。	昨年2月以降入居者の入れ替わりもなく、落ち着いた生活であることが随所から確認された。継続した医療支援や、家族、教え子の面会、日々生活を共にする職員への何気ない声掛けなど馴染みの関係性が出来ている。中には家族の法事に帰省される方もおられる。地域行事も入居者には馴染みのものとして定着し、資源を活かした取組がこの一年で増加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なじみの関係や身体レベル等を考慮して現在の席を設けている。認知症を理解し御利用者様の動きながらトラブル回避できるよう対応に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には相談・支援できるよう、ホーム内における連絡体制を構築している。(管理者への報告)		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パーソンセンタードケア、ユマニチュードの考え方を伝達し、利用者視点・本位のケアを行えるよう勉強会を実施しケアプランにも反映させている。	入居者が自ら発言されることは少ないが、会話の中に聞きたいことを盛り込んだり、代弁者として家族からの情報を支援に反映させている。入居者の中には職員に何かを買いたいとの思いから、外出を希望されるなど、馴染みの関係性が出てきていることに職員は感謝しており、遠慮して言えない方などへの対応を重視している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートで不足している情報は随時カンファレンス等で御家族様と関わる際にお聞きして更新している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	確実な申し送りと各担当、専門職が連携して左記内容を含めた情報の共有ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に本人様、御家族様のニーズを確認して、状態に合わせたプラン内容の更新と担当者会議を開催している。	職員を入居者の担当制としている。入居間もない方の簡易アセスメントを家族や職員の情報から作成している。入居者自身が歩行器を忘れて独歩で歩かれるなど、転倒のリスクに特化した内容をあげて現時点で重要視されるものをアセスメントとしてプランにつないでいる。担当者会議には家族、看護師、ケアマネジャーが参加し、担当医師の紹介内容への意見を反映している。プラン内容は分かりやすく説明され、全家族からの了承を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には普段の様子もだが、プランのモニタリングとしての機能も含め記録をするよう周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日用品購入、気分転換のための外出等、その時々訴えに可能な限り対応した支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学校、公民館、神社等に赴き、その時々行事に参加させていただいている。地域交流といった楽しみをもった生活の支援を心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	送迎対応、必要時には御家族様の代理で受診を行っている。状態変化時は主治医へ連絡し指示を受けるようにしている。	現在は、半数の方が協力医療機関への受診外出をされており、もともとの医療機関を希望される場合は、家族による対応を依頼しているが、状況に応じてホームでも支援している。日々の健康管理は在籍している看護師が中心に対応しており、状態変化時は速やかに主治医へ連絡を行い指示を仰いでいる。歯科については全員が診察を受け、必要な方のみ治療や口腔ケアを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り、引継ぎに関するノートやケース記録への記入により情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診時に日頃の御様子を逐一報告している。入院時には情報提供を行い、また退院される際には引継ぎを受け、相互の情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応・終末期ケア対応指針を入居契約時には説明し、意向の確認を行っている。担当者会議毎にも意向を尋ね、変更時は全職員へ伝達している。	入居時に重度化・終末期に関する指針と急変時対応に関して書面をもとに説明を行っている。医療依存度が高くなれば、医療機関への転院になる場合が多く、ホームではできるところまでを支援している。また、本人や家族の意向については、担当者会議の中で、ケアマネジャーが中心に聞き取り、職員間で周知を図る他、相談事には随時丁寧に応じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・急変発生時のフローチャートを活用している。緊急対応や事故に関する研修会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練を日中想定、夜間想定のパターンで実施。地域の防災訓練にも参加している。	今年度は消防署の参加協力を得、6月に夜間想定で、10月に昼間想定で火災避難訓練を実施している。訓練後、扉を一気に開けると危険であり、いざというときは居室からの避難や、車いす使用者をマットで引くなどのアドバイスを受けている。定期点検は管理者が中心になり、月1回実施しており、災害備蓄はリストもとに備えている。	今後は自然災害についても机上を含めて有事に備えた訓練などの機会が必要と思われる。また、現在、終息が待たれるコロナ感染対策についても、新たにマニュアルを整備し備蓄の見直しなど、今後も課題として意識をもって進めていかれる事を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	前回指摘をいただいた居室入室時の声かけやノックについて改善みられている。他にも態度や言葉遣いについても不適切な言動であった場合は職員間で注意しあっている。	呼称は法人の共有として苗字に様としているが、場面によっては苗字にさん付けでも対応している。不適切なケアや対応が見られた場合は、互いに注意できる環境に努めている。ホーム内は入居者の大切な生活空間であり、居心地よく過ごしてもらえよう掃除や換気に努め、車いすなどは点検を兼ねて週1回掃除を実施している。	職員の声掛けや対応はホームの雰囲気に関わることから、声のトーンや入室時のノックの徹底を含め、職員の接遇については、事例をあげながら周知徹底に努めていかれるを期待したい。また、玄関先に置かれた面会簿については、個人情報の点からも個別記入などの対応が必要と思われる。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動や考えを押し付けたり無理強いすることなく、御本人様の思われるペースで過ごせるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしについて希望を事前にお聞きした上で、表情や動きで思いを察知し、その日その日の状態に合わせた言葉かけやケアを行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアの更衣時、入浴時の着替え等、本人様と選び必要時はアドバイスを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者様には食事の盛り付けや食後の片付けの手伝いをお願いしている。昨年はおやつ作り、家庭菜園で生った野菜でスタッフと共に調理を行った。	食事は主食のみをホームで炊き、副食やおやつなどは法人厨房で調理されたものを、受け取りいに行き提供している。入居者が食材の下ごしらえを含め調理に関わる機会はないが、おやつ作りや家庭菜園での野菜(ねぎ・トマト・ニガウリなど)作りを一緒に行っている。食事形態も個々に応じて対応しており、見守りや介助に努めている。職員は持参した弁当などを休憩を兼ねて、別の場所で摂っている。	職員は普段持参した弁当などを摂っており、おやつ作り時には同じものを食べながら思いを共有し、食の会話を楽しんで行かれることを期待したい。また、食後は口元の周りなどの確認にも期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食席を考慮し、食べやすいよう自助具の選定、食事形態等随時検討している。摂取量を確認しながら利用者様によっては個別で補食・水を購入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の際に、歯科医師・歯科衛生士より助言をいただきながら口腔ケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御利用者様の様子に変化・排泄の予兆を確認した際にお声かけをしたり、食前食後には声かけを行い、日中は出来る限りトイレでの排泄を心がけている。	食事の前後や表情、動きなどから察知し、プライバシーに配慮した声掛け・誘導により失敗の無い排泄を支援に努めている。脚力や視力・聴力など個々の身体状況に応じた声掛け・誘導が行われている。手引き歩行を委ねる入居者の表情からも、信頼関係が窺われた。現在は殆どの方がリハビリパンツを使用されているが、布パンツやテープ式オムツで過ごされる方もおられる。夜間のみポータブルトイレを使用される方には、配置場所なども個々に応じて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、食事水分摂取を確認しながらDr指示にて適切な排便コントロールを実施中。尿便意があいまいな方でもトイレ便座に腰かけて頂いたり、腹部マッサージ等も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2、3回の間隔で入浴をすすめている。午前午後どちらでも入浴できるよう職員を配置し、希望に合わせて実施している。同性介助にも努めている。	一人ひとりのタイミングや状況に合わせて週2～3回、午前・午後で入浴を支援している。同性介助の希望にも応じ、マンツーマンでゆっくりと入ってもらえるようにしている。身体状況からシャワー浴が中心になられて方にも、かけ湯をしながら湯冷めなどよう気を付けている。脱衣所や浴室の側溝なども掃除を徹底し気持ちよい入浴ができるようにしている。	浴室の窓は大きく採光の場所でもあり、今後は窓棚に置かれたシェーバーの管理を含め、整頓を心掛ける事で更に良い空間になると思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々のペースに合わせて日中の臥床支援・夜間の就寝ケアを行っている。室温や室内の明るさ、衣類の調整等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各御利用者様の既往歴を把握し、服薬の確認も併せて伝達している。普段の状態変化にも目を配りながら、服薬変更時には注意点を申し送り、様子観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮し、洗濯物たたみや掃除、食器拭き等その方々の能力に応じた役割をもって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物希望される事が多く、御本人様と共に外出し買い物の支援を行ったり、近隣の散歩やドライブ等の要望にも随時対応している。外出先で御家族様や地域の方の支援を受けることもあった。	近隣の散歩や買い物など、出された要望には随時対応に努めている。町内の餅つき大会見学や祭りなど地域行事への参加をはじめ、初詣は徒歩で地元の神社へ参拝している。その際は、安全面に配慮しながら人々との交流ができるよう集落の中を歩いて出かけている。家族の協力としては美容室への外出や法事などで日帰りの帰省をされる方もおられる。また、普通食を食べる事が出来る方は、家族と受診の後食事を楽しまれている。	暑さや寒さ、感染症の時期は戸外に出る機会が少なくなることから、外出の気分を味わえるような旅や名所のDVDなどの活用は、外出が困難な入居者にとっても良いと思われる。職員の工夫に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人様、御家族様の同意の下で現金をお預かりしている。必要時は依頼を受け代理で買い物を支援する事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば御家族様へ本人のお話をお伝えしたり、本人へ代わり電話の応答支援することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月毎に創作活動を行い、季節感のある張り紙を更新していた。自然の明るさを取り入れるよう環境に配慮している。	ホームは入居者や来訪者にとっても居心地や安全な環境となるよう、管理者を中心に掃除や整理整頓に取り組んでいる。特に、物品の配置や掲示物も必要最小限とし、リビングのカーテンを開け開放的な空間としながら、外部へ向けてもオープンな姿勢を表している。食堂とリビングが別に設けられており、入居者は独歩や車椅子等で移動することもメリハリのある生活となっている。	廊下に掲示された写真は本人や家族にとっても楽しみと思われる。今後も努めて近況の物を掲示されることを期待したい。また、異食等に配慮しながら、庭先に咲いた草花などを飾ることで、季節に触れる機会になると思われる。取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビング、ダイニングの生活空間を駆使し、その方にとって過ごしやすい環境の提供と見守りができるよう職員の配置を都度考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた身の回りのものを持参いただき、御本人様にとって過ごしやすい生活空間となるよう環境整備に努めている。	もともとの生活環境を継続して住んで欲しいとし、入居時には寝具や衣類など馴染みのもの、趣味の品などを伝えている。居室内の環境整備は、担当職員が行っており、衣替えの協力や必要なものを伝え、速やかに持参されている。居室内も共用空間同様、歩行や車椅子の利用がしやすいよう、物品の配置や整頓を心がけており、入居年数が長い方にとっては、特に自分の部屋として過ごされていることが窺える。テレビの持ち込みもあるが、見られない方もおられるようである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器での移動・車椅子自操がしやすいよう移動空間を広くとり、障害物を取り除く工夫を行った。		